

アイヌ口承文芸「散文説話」 —カッコウの神から守られた女—

大谷洋一

- 目次 1 まえがき
2 アイヌ語テキストと対訳
3 日本語テキスト

Key Words アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、ウウェベケレ (*Uwepeker*)、カッコウ (*Cuckoo*)、カムイ (*Kamuy*)、夢 (*Dream*)

1 まえがき

本稿で紹介するテキストは、北海道沙流郡平取町字ペナコリ出身の上田トシ氏 (1912~2005) が伝承していたアイヌの散文説話 (ウウェベケレ) である。

この物語のアイヌ語と日本語による語りの採録は、1998 (平成10) 年10月1日に上田氏の親友である、同町字去場在住の鍋沢キリ氏 (1921~2005) のご自宅において筆者が行った。まずアイヌ語による口演 (18分5秒) を行っていただき、その直後に日本語による口演 (12分35秒) をしていただいた。

伝承経路について上田氏は、姉の木村キミ氏 (1900~1988) から伝え聞いた物語であると述べられた。ただし、今までに一度も口演したことはなかったが、同町字二風谷において、萱野茂氏 (1926~2006) が主催するアイヌ語の学習会に上田氏が参加した際、萱野氏が木村氏から録音した本編と同じ物語のアイヌ語テキストを譲り受けたことで、改めて本編を思い出して初めて人前で語った、と言われた。

筆者は、本編の録音資料を公開するために2009年10月22日に内容の大まかな文字化と日本語訳を終えて、翌年に公開資料を作成した⁽¹⁾。本編のより正確な文字化にあたっては、2018年に田村雅史氏の協力を得ることができた。

あらすじ

私は、両親がいて兄も二人いて、貧乏な暮らしをしている娘だった。やがて、兄たちが成長したらシカやクマ

を獲ってくるようになり、食べ物には不自由はしなくなった。私は薪をとり山へ行き、料理をして暮らしていた。ある日、薪とりに山へ行くと、茅の根本から大きなカッコウが飛び立った。私が茅の根本を見ると、卵が三つあった。私は喜んで卵を懐に入れて帰った。二番目の兄に見せると、兄は卵をきれいな箱に入れた。自分たちは貧乏人なので村の端で暮らしていたのであるが、しばらくすると村長が家に来た。父が来訪の理由を尋ねると「この村には娘たちがたくさんいるけれども、息子はあなたの娘さんを欲しいと言っている。娘さんを嫁に出来ないか？」と言うのでした。父は「自分たちは貧乏して肩身の狭い思いをして暮らしているので、村長の息子さんの嫁にはやれません」と答えた。村長はあきらめて帰った。しかし、翌日には村長の奥さんが大きな荷物を背負って来て、両親の衣服をくれるという。それでも父は嫁の話を断った。今度は村長の息子がシカやクマを獲ったのを運んで来るようになった。父はこんなにしてくれる村長たちに申し訳ないと思い、私に「嫁に行け」と言った。それで村長の息子と幸せに暮らすことになった。私の兄たちも結婚して皆が幸せに暮らしていた。ある日、私は夢を見た。きれいな女性が「私は人間ではない。カッコウの神だ。お前は私と同じ日に生まれた。私はお前を見ていたら、とても精神の良いのがわかった。それで、私がおまえたちを見守ったら、いつかカッコウの神を祭ってくれるだろうと思った。これからも見守ってやるから、酒や御幣やご馳走で祭ってくれ」と言った。朝起きて夢見の話をすると、夫も舅も同じ夢を見たという。村長はすぐにおいしい酒を造って、御幣とご馳走で

大谷洋一：北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) 旧北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける資料番号はCC000800。公開資料番号はCC800192「平取町の伝承23」として2010年度から (現在は北海道博物館図書室にて) 公開している。

カッコウの爺さんを祭った。それから、私の父も村長も互いの家を行き来するようになり、私も子供をたくさん産んで幸せに暮らした。今は父も舅も亡くなってしまったけれども、カッコウの神が見守ってくれたおかげなのだから、カッコウの神へ祈ることを忘れるのではないぞと遺言して私は死んだと、一人の女が話した。

謝辞

本稿の作成にあたって、査読して下さったお二人の先生及び田村雅史氏から、多数の改善点について指摘を受けることができました。査読していただいた先生のお名前は知る立場にない私ですが、丁寧親切なご指導に対して、記して心から感謝申し上げます。

〈アイヌ語テキストの凡例〉

(1) 本文の構成

二段組として、一段ごとにアイヌ語による語りはカタカナとローマ字の順で表記した。その下に日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

(2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタク』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音が付いたりする場合があるので、それが比較的に目立つ場合はその近い音を記した。また、言いさしや特に意味をなさない言いよどみは（ ）で括った。聞き取りや解釈の難しい単語の後に（？）を付した。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した例：「ボン セタ」→「ポイ セタ」。

(3) ローマ字の表記

基本的に『アコロ イタク』と同じ方式で記した。音素交替を起こしたところは、単独で発した場合の形で記した。例：「poy seta」→「pon seta」。

よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句については、そのローマ字の語尾に「??」を付けた。

(4) 対訳の〔 〕内表記

音便や日本語北海道方言については、註あるいは〔 〕内にことばを補った。

(5) 参考にしたアイヌ語辞典は以下のとおりであり、本編の注釈内では〔 〕にそれぞれの筆者の頭文字を記した略号として用いた。

[萱] 萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典, 三省堂.

[久] 久保寺逸彦 1994. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書 (久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海道文化財保護協会・北海道教育庁生涯学習部編.

[田] 田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典, 草風館.

[中] 中川裕 1995. アイヌ語千歳方言辞典, 草風館.

2 アイヌ語テキストと対訳

アオナハ アン アウヌフ アン

a=onaha an a=unuhu an

私は父母と

アユピヒ カ アン ヒネ

a=yupihi ka an hine

兄もいて

オカアン ペ ネ ヒケ

oka=an pe ne hiki

暮らしていました。

エアラキンネ アオナハ

earkinne a=onaha

本当に私の父は

イベサク ウェンクル ネ ヒネ (エ)

ipesak wenkur ne hine

狩の下手な貧乏人なので

チェッポコイキ ヤッカ

ceppokoyki yakka

小魚獲りをして

シネ チェッポ ポカ (ア)

sine ceppo poka

一匹の小魚も

オシコニ カ ソモ キ ノ アン (アオ)

oskoni⁽²⁾ ka somo ki no an

獲ることも出来ないでいた。

アオナハ ウェンクル ネ ワ

a=onaha wenkur ne wa

私の父は貧乏人で

ウェン (シ、シリ) シリキラプ

wen sirkirap

ひどい苦勞をした。

イベ ポカ アエシリキラプ コロ (オ)

ipe poka a=esirkirap kor

食事にも困って

オカアン アイネ

oka=an ayne

暮らして

アコポロ ルウェネ ア プ

a=koporo ruwe ne a p

私たちは成長したのですが

オラ アユプタリ ルプネ ヒ

ora a=yuputari rupne hi

それから兄たちが一人前になったとき

オラノ アナクネ

orano anakne

からは

エキムネパ コロ アユプタリ

ekimnepa kor a=yuputari

山へ行って私の兄たちは

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ

yuk ne ciki kamuy ne ciki

シカでもクマでも

エアウナルラ ワ (ワ)

eawnarura wa

運んで

ネプ アエ ルスイ カ

nep a=e rusuy ka

なにを食べたいとも

アコン ルスイ (ア、コン、ルスイ) カ

a=kor rusuy ka

なにか欲しいとか

ソモ キ コロカ (アイ) イミ アナクネ

somo ki korka imi anakne

思わなかったけれども、衣服だけは

イコイトウパアン コロカ

ikoytupa=an korka

持っていなくて暮らしに困ったけれども

(ア) アエプ アナクネ

aep anakne

食べ物というものは

タネ エイタサ イコイトウパアン カ

tane eytasa ikoytupa=an ka

今はそれほど欲しがりも

ソモ キ ノ オカアン ペ ネ コロカ

somo ki no oka=an pe ne korka

しないで暮らしていたけれども

ウェンクル アネパ プ ネ クス

wenkur a=nepa p ne kusu

貧乏人の私たちだったので

コタン アパポク タ ヤイキレノ

kotan apapok ta yayikireno

村の入り口に一軒で離れて

(2) 一名の査読者から「oskoni → osikoni」と指摘を受けていたが、筆者にはどうしても「オシコニ oskoni」と聞こえる。[田]の「osikoni オシコニ」の項目の参考記述に「しばしば s の後の i が落ちて oskoni オシコニと発音される」とあり、上田氏もこの語形に揺れがあるものと思われる。また、[萱]の見出し語でも「オシコニ (オシコニ) 【os(i)koni】と記して [田]と同じく、語形の揺れを認めている。

オカアン ルウェ ネ ア プ

oka=an ruwe ne a p

暮らしていました。

アウタリ トウラノ

a=utari turano

私の仲間たちと一緒に

エキムネアン コロ オラノ (ウ)

ekimne=an kor orano

山へ行くとそれから

アコタヌ ウン ポン メノコ ウタラ

a=kotanu un pon menoko utar

村の娘たちは

「ウェンクル サニ ネ コロカ

“wenkur sani ne korka

「貧乏人の子孫だけれども

カッ タクピ アナクネ

kat takupi anakne

外見だけは

ピリカ」セコン ネ ヤ

pirka” sekor ne ya

よい。」とか

(ア) ハウエオカ (カ) パ コロ

haweokapa kor

言いながら

エウミナレバ コロ オカ ヤッカ

euminarepa kor oka yakka

皆で笑ったけれども

エネ アイェ ヒ カ イサム

ene a=ye hi ka isam

どう言しようもない

ウェンクル アネ プ ネ クス

wenkur a=ne p ne kusu

貧乏人の私だったので

「ウェンクル タイペ ウェンクル サニ」

“wenkur taype wenkur sani”

「貧乏人の血統、貧乏人の子孫。」

セコロ イイエバ ヒケ カ

sekor i=yepa hike ka

と言われても

エネ アイェ ヒ カ イサム ペ ネ クス

ene a=ye hi ka isam pe ne kusu

どう言しようもないので

モシマノ アナン ペ ネ コロカ オラ

mosmano an=an pe ne korka ora

黙っていたけれどもそれから

アリキキ アナクネ アキ プ ネ クス

arkiki anakne a=ki p ne kusu

よく働くことは出来るので

ニナアン ネ ヤ キ コロ ピリカ チクニ

nina=an ne ya ki kor pirka cikuni

焚き木採りをしながら、よい木を

アタ ワ アセ ワ イワクアン (アン) ワ

a=ta wa a=se wa iwak=an wa

切って背負って帰って

フチ アペ パロ アオイキ ヒ ネ ヤク

huci ape paro a=oyki hi ne yak

火の女神を養っていた⁽³⁾と

アイェ コロ (オ) ピリカ チクニ

a=ye kor pirka cikuni

私が言いながら上質の薪を

ホカ アオ コロ アユプタリ

hoka a=o kor a=yuputari

くべると、私の兄たちが

エキムネ エトコ ウン スケ ネ ヤ

ekimne etoko un suke ne ya

山へ行く準備に料理とか

アキ コロ アナン ワ エアラキンネ

a=ki kor an=an wa earkinne

私がして本当に

アユプタリ ネ ヤッカ

a=yuputari ne yakka

兄たちも

アオナ (ネ) ウタン ネ ヤッカ (ア)

a=ona utar ne yakka

父親たちも

イコプンテキ イェ ロク コロ

i=kopuntek hi ye rok kor

私のことを褒めて

オカアン ペ ネ ア プ

oka=an pe ne a p

いたのでした。

シネアンタ エキムネアン (ウン) ヒネ

sineanta ekimne=an hine

ある日、私が山へ行って

(3) 筆者は日本語訳を「火の女神を養っていた」と記しているが、直訳は「火の女神に食べ物を与えて養う」である。女神の食べ物とは、燃料の薪を指す。

(ニ) ニシケカラアン ヒネ (エ)

niskekar=an hine

焚き木の荷を作って

アセ クナク アラム ワ (ア)

a=se kunak a=ramu wa

背負おうと思って

コロ アナン サ (ナ) マ タ

kor an=an sama ta

持つと、そばに、

ニシケ サム タ アアン ヒネ アナン コロ

niske sam ta a=an hine an=an kor

焚き木のそばで私が座って

インカラアン ルウェ ネ アクス

inkar=an ruwe ne akusu

見ていると

(ラ、ラベンペ エ)〔約8秒間の無言〕

rapenpe

茅の、

(トゥ) ラベンペ トウム⁽⁴⁾ ワ

rapenpe tum wa

茅の根本から

シネ カッコク ホプニ シリ

sine kakkok hopuni siri

一羽のカッコウの飛ぶ様子が

イキ ヒ クス オラ

iki hi kusu ora

したのでそれから

カッコク ネ ヤッカ カッコク

kakkok ne yakka kakkok

カッコウでも〔普通の〕カッコウ

カスノ (ポ) ポロ カッコク

kasuno poro kakkok

よりも大きなカッコウが

ホプニ ワ アラパ シリ イキ ヒ クス

hopuni wa arpa siri iki hi kusu

飛んで行ったようだったので

オラ オロ タ アラパアン ヒネ

ora oro ta arpa=an hine

そこに私が行って

インカラアン ルウェ ネ アクス

inkar=an ruwe ne akusu

見ると

レ タマンコ⁽⁵⁾ ネ (エ) カッコク

re tamanko ne kakkok

三つの卵がそのカッコウの

セッ オッタ アン ヒ クス

set or ta an hi kusu

巣の中にあつたので

アエヤイコプンテク コロ ネ カッコク

a=eyaykopuntek kor ne kakkok

私は喜んで、そのカッコウの

タマンゴ オピッタ⁽⁶⁾ アウク ヒネ

tamanko opitta a=uk hine

卵を全て取って

アウプソロオマレ ヒネ イワクアン

a=upsoromare hine iwak=an

懐に入れて帰った

ルウェ ネ (ヒネ クス、ア) ヒネ オラ

ruwe ne hine ora

それから

オヌマン ネ アユプタリ

onuman ne a=yuputari

夕方になって私の兄たちが

イワクパ ヒ クス ポン アユピ エウン

iwakpa hi kusu pon a=yupi eun

帰ったので小さい兄へ

タプネ ネ ヒ アイェ コロ

tapne ne hi a=ye kor

かくかくしかじかと言って

カッコク タマゴ アコロ ワ イワクアン

kakkok tamanko a=kor wa iwak=an

カッコウの卵を持って帰った

ルウェ ネ ヒ アイェ アクス

ruwe ne hi a=ye akusu

ことを言うと

アユピ オンカミ ア オンカミ ア コン

a=yupi onkami a onkami a kor

兄は何度も礼拝し

ナニ スウオプ アサム オマレ⁽⁷⁾ ヒネ

nani suwop asam omare hine

すぐに箱の底に入れて

オカアン ルウェ ネ ア プ

oka=an ruwe ne a p

暮らしていたのであったが

(4) 上田氏の口演後にこの言葉の意味を伺ったところ、「ラベンペ モト rapenpe moto (茅・の根本) と言おうとしたが言い損なった。ラベンペ rapenpe は固まって生えていて、昔はそれを束にして屋根を葺いた。」という旨を述べられた。

(5) 上田氏は「卵」を意味する「タマンコ tamanko」について、他に「タマンゴ」や「タマゴ」などと語形に揺れが見られる。

(6) カッコウは托卵を行い、他の鳥の巣に卵一個を産卵するのであるが、本編では3個ともカッコウの卵と認識されて語られている。本編の伝承地ではカッコウの托卵についての知識がなかったのであろうか不詳。

(7) 上田氏によると「スウオプ アサム オマレ suwop asam omare」という意味は「宝物にちゃんとして置いた」ということである。

オラノ カ オホンノ

orano ka ohonno

それからしばらく

オカアン ルウェ ネ アクス

oka=an ruwe ne akusu

私たちが暮らしていると

シネアンタ コタン コン ニシパ (ア)

sineanta kotan kor nispa

ある日、村長が

イヨチトラペ アニ カネ ヒネ (エ)

iyocitarpe ani kane hine

ものを入れた袋を持って

エク ルウェ ネ ヒネ オラノ

ek ruwe ne hine orano

来て、それから

アオナハ (ア) エキマテク 「マク ネ ヒネ

a=onaha ekimatek “mak ne hine

私の父は驚いた。「どうして

アコロ コタン コン ニシパ

a=kor kotan kor nispa

村の長者が

アロラムンノ (イ) イコシネウェ ヒネ

aroramunno i=kosinewe hine

心配な用事もなく、私に訪ねて

エネ アン ルウェ

ene an ruwe

来られたのですか？

ウェンクル アネ ワ

wenkur a=ne wa

貧乏人の私なので

ヤイシトマアン コロ オカアン ペ

yaysitoma=an kor oka=an pe

恥ずかしく思いながらいたものですが、

エネ コタン コン ニシパ イコシネウェ

ene kotan kor nispa i=kosinewe

こうして、長者さんが訪問して来た

シリ アン」 セコロ アオナ ハウエアン コロ

siri an?” sekor a=ona hawean kor

のですか？」と私の父が言いながら

コオンカミ ア コオンカミ ア

koonkami a koonkami a

何度も礼拝

ルウェ ネ アクス オラ

ruwe ne akusu ora

するとそれから

ネ コタン コン ニシパ エネ ハウエアニ

ne kotan kor nispa ene hawean hi

村の長者がこのように話した。

「アコタヌ タ ポンメノコ ポロンノ

“a=kotanu ta ponmenoko poronno

「私の村には娘はたくさん

オカ (ア) ワ シネポ タクプ

oka wa sinepo takup

いるが、一人の息子だけを

アコロ ペ ネ クス アポホ エウン (ウ)

a=kor pe ne kusu a=poho eun

私は持っているので私の息子に

ネ ポンメノコ ウタラ

ne ponmenoko utar

その娘たちを

アエトウン クス アイェ ヤッカ

a=etun kusu a=ye yakka

嫁にしようと言っても

(ア) アポホ アエニウケシ

a=poho a=eniwkes

私は息子を〔説得〕できなかった。

「アコン ニシパ マツネポホ (ウ)

“a=kor nispa matnepoho

「あの人の娘

ヘネ ネ ヤクン アコン ルスイ」 セコロ

hene ne yakun a=kor rusuy” sekor

ならば欲しい」と

ハウエアン コロ アポホ (オ)

hawean kor a=poho

言いながら私の息子が

コパン ルウェ ネ (ハ、ヒネ オル)

kopan ruwe ne

嫌がっている

クス アコン ニシパ エウン (ウ)

kusu a=kor nispa eun

ので、あなたのところに

マテトウンアン クス

matetun=an kusu

嫁を貰うために

エカン ルウェ ネ」 セコロ

ek=an rwe ne” sekor

私は来たのです。」と

ハウエアン ルウェ ネ アクス

hawean ruwe ne a kusu

言ったものだったから

アオナハ (エ) エキマテク

a=onaha ekimatek

私の父は驚いて

「ヒナク ワ エネ アン ウェンクル アネ プ

“hinak wa ene an wenkur a=ne p

「どうしてこんな貧乏人の私なのに

ニシパ オルン アマツネポ アコララ セコロ

nispa or un a=matnepo a=korar sekor

旦那さんのところへ娘をあげると

アン ペ アナクネ ソモ (アン) アン ペ ネ

an pe anakne somo an pe ne

いうことは出来ません。

ウェンクル サニ ネ ワ

wenkur sani ne wa

貧乏人の子孫なので

ニシパ オルン アコラル ヤクン オラ

nispa or un a=korar yakun ora

旦那さんのところへやったら

ウェンクル サニ ネ ヤク アイエ コロ

wenkur sani ne yak a=ye kor

貧乏人の子であると言われて

アコサツサトウ⁽⁸⁾ ヒ カ (ア)

a=kosatsatu hi ka

軽蔑されるのも

アエラムポキウェン クス

a=erampokiwen kusu

私は憐れですので

ソモ アン ペ ネ」 セコロ

somo an pe ne” sekor

できないのです。」と

アオナハ ハウエアン コロ

a=onaha hawean kor

私の父は言いながら

エアラキンネ コパン ワ オラ

earkinne kopan wa ora

とても拒んでから

ネ コタン コン ニシパ

ne kotan kor nispa

その村の長者さんが

エヤイラムカラ ヒネ

eyayramkar hine

あきらめて

ホシピ ルウェ ネ ア プ

hosipi ruwe ne a p

帰ったのであったが、

オラ スイ ニサツタ ネ アナクス

ora suy nisatta ne an akusu

それからまた翌日になると

ネ コタン コン ニシパ コロ カツケマツ

ne kotan kor nispa kor katkemat

その長者の奥様が

スイ ポロ チタラペ

suy poro citarpe

再び大きなゴザの

ポロ シケ キ ヒネ エク ヒネ

poro sike ki hine ek hine

大きな荷物を背負って来て

オラ スイ (ネ) 「ニシパ マツネポホ

ora suy “nispa matnepoho

それからまた「旦那さんの娘さんを

アコン ルスイ ヒ クス エクアン ルウェ ネ」

a=kor rusuy hi kusu ek=an ruwe ne”

欲しくて来ました。」

「タプネノ (イ) イミ ネ ヤッカ

“tapneno imi ne yakka

このように衣服であっても

ピリカ アミプ アミ カ

pirka amip a=mi ka

立派な着物を私は着るのも

エラミシカリ ノ アナン

eramiskari no an=an

出来ないでいました。

エネ アン イミアン ヒネ

ene an imi=an hine

このような〔粗末な〕服を着て

オカアン」 セコン ネ ヤ

oka=an” sekor ne ya

暮らしているのです。」とか

アオナハ ハウエアン コロ アン ア プ

a=onaha hawean kor an a p

私の父が言っていましたが

ネ コタン コロ カツケマツ

ne kotan kor katkemat

その村の奥様が

(8) [萱] p235に「コサツサド【ko-satsatu】うさんくさい顔で見る.」、p255に「サツサド【satsatu】軽蔑される. ほじくる：人のあらをほじくる.」と記述あり。

ポロ シケ キ ヒネ サナクス オラ
poro sike ki hine san akusu ora

大きな荷物を背負って下りて

ウサ アミプ アオナハ ミ クニ プ
usa amip a=onaha mi kuni p

いろいろな着物を、父が着るものと

アウヌフ ミ クニ プ (ネ) ネ ヤ
a=unuhu mi kuni p ne ya

母が着るものとか

ヤイカタ アミ アミプ ネ ヤ
yaykata a=mi amip ne ya

私自身が着る衣服とか

チケメカラベ ウサ オカイ ペ
cikemekarpe⁽⁹⁾ usa okay pe

刺繍したいろいろなものを

ポロンノ メノコ エシピネ⁽¹⁰⁾
poronno menoko esipinep

たくさんの女が身にまとうもの

セ ワ サン ヒネ (ア) アオナハ
se wa san hine a=onaha

を背負って来て、私の父と

(アウ) アウヌフ コレ (イ、イイ)
a=unuhu kore

母に与え

ルウェ ネ アクス オラ アウヌフ (ネ) カ
ruwe ne akusu ora a=unuhu ka

ると、それから私の母も

アオナハ カ (ウ) チシ コロ コパン
a=onaha ka cis kor kopan

父も一緒に泣きながら拒んだ。

「ウェンクル アネ ワ

“wenkur a=ne wa

「私たちは貧乏人だから

オラ エネ (エ) ウサ アミプ ネ ヤ
ora ene usa amip ne ya

それからこのように着物だとか

ウサ チケメカラベ (アウ)

usa cikemekarpe

刺繍したもの

(イエ、エン) ウンケライアン ヤクン
unkeray=an yakun

をいただいたのなら

ポ ヘネ アマツネポホ アケムヌ
po hene a=matnepoho a=kemnu

なおいっそう私の娘がかわいそうで

アトウヤシカラプ クス
a=tuyaskarap kusu

哀れなので

ソモ アン ペ ネ」 セコロ (ウ)
somo an pe ne” sekor

〔衣服を貰うことが〕できないのです。』と

アオナハ ウタラ カ チシ コロ
a=onaha utar ka cis kor

私の父たちも泣きながら

コパン ヤイカタ カ アコパン (ウン)
kopan yaykata ka a=kopan

断った。私も断った。

ウェンクル サニ アネ ヒネ ニシパ オルン
wenkur sani a=ne hine nispa orun

私は貧乏人の子であって、長者のところへ

アラパアン ヒ アオナハ ウタリ (ア、イ)
arpa=an hi a=onaha utar

行くことを私の父たちが

コパン ペ ヤイカタ カ
kopan pe yaykata ka

拒むものを自分が

「アラパアン クス ネ」 セコロ
“arpa=an kusu ne” sekor

「私が行きます。」と

アイエ ヒ カ アコライニウケシ クス
a=ye hi ka a=korayniwkes kusu

私は言う気になれないので

モシマノ アナン ヒネ アコパン ヒネ
mosmano an=an hine a=kopan hine

黙って拒んで

オラ ネ カツケマツ カ (ア)
ora ne katkemat ka

それから、その婦人も

ホシピ ワ イサム ルウェ ネ ア プ
hosipi wa isam ruwe ne a p

帰ってしまったのですが

オラ スイ イシムネ
ora suy isimne

それからまた翌日、

(9) [田] では「刺しゅうの入った衾 (あわせ) の着物 (祭りのときの礼服)。」とあり、[萱] では「縫い物 (手で縫った物)。」とあり、意味が少し異なっているが、ここでは上等の衣服を差し出したと考えられることから [田] の記述に準じた。

(10) [中] p219に「シピネ sipine【動1】(単) シピンバ (複)。身支度する。」とあり、この項目内であげられている用例の中に「エシピンバ プ esipinpa p 着るもの」というフレーズがあることを参考に訳出した。なお、本テキストでは単数形で語られている。

トウッコ レルコ シラナクス
 tutko rerko siran akusu
 二、三日経つと
 オラ ネア イポネクル (ウ)
 ora nea iponekur
 それからその息子を
 アヌカラ カ エラミシカリ プ (ネ)
 a=nukar ka eramiskari p
 私は見たこともなかったが
 ネ イポネクル オラ
 ne iponekur ora
 例の息子が
 シリ オヌマン コロ、 エキムネ コロ
 sir'onuman kor, ekimne kor
 夕方になると、山へ行くと
 オラ アウニ ウン シケルラ⁽¹¹⁾ コロ
 ora a=uni un sikerura kor
 それから私の家に獲物を運びながら
 ケシト アン コロ (シ) シケルラ コロ アン
 kesto an kor sikerura kor an
 毎日、荷物を運びながらいた。
 アユプタリ カ エネ (ヌイ…)
 a=yuputari ka ene
 私の兄たちもこのように
 ヌウェコオカ (イ) ワ アエブ アナクネ
 nuwekooka wa aep anakne
 獲物に恵まれて食べ物は
 アエシルキラプ カ ソモ キ ノ
 a=esirkirap ka somo ki no
 私は心配もしないで
 アナン ウシケ ウン ケシト アン コン
 an=an uske un kesto an kor
 いたところへ毎日
 ネ コタン コロ オッカイポ
 ne kotan kor okkaypo
 その村の青年が
 シケルラ コロ アン ルウェ ネ
 sikerura kor an ruwe ne
 荷物を運んでいた
 アクス オラ アオナ エネ ハウエアニ
 akusu ora a=ona ene hawean hi
 ところ、私の父がこのように話した。

「アマツネポホ (ネ) ネウン (ウ)
 “a=matnepoho neun
 「私の娘よ、どんなにか、
 ニシパ オルン アエコラル ヒ (ヒ)
 nispa or un a=e=korar hi
 旦那さんにお前をあげることを
 (アエトウル、トウル) ウエンクル サニ
 wenkur sani
 貧乏人の子孫が
 アネ ワ アトウヤシカラプ ア コロカ
 a=ne wa a=tuyaskarap a korka
 私なので私は哀れに思っていたが
 エネ アン ニシパ ウタラ (ア)
 ene an nispa utar
 このように旦那さんたちが
 ウトウカリ タ ウトウカリ タ ネウン ネウン
 utukari ta utukari ta neun neun
 何度もしょっちゅう、あれこれ
 イキ コロ アラキパ プ…
 iki kor arkipa p
 してくださったが、
 ネイ パクノ アコパン セコロ
 ney pakno a=kopan sekor
 いつまでも嫌だと
 (ハウエ) ハウエオカアン ヒ カ
 haweoka=an hi ka
 言うことも
 ニシパ オルン オリパクアン クス
 nispa or un oripak=an
 旦那さんに恐れ多いので、
 ルウェ ネ クス ネウン ネ ヤッカ
 ruwe ne kusu neun ne yakka
 なので、なんとしても
 アマツネポホ (コンル) コタン コン
 a=matnepoho kotan kor
 私の娘を村の
 ニシパ ウタラ コン ルスイ (ワ) パ ワ
 nispa utar kor rusuy pa wa
 長者さんたちが欲しくて
 イキ ヒネ ヤクン
 iki hine yakun
 することであるなら

(11) 上田氏によると「シケルラ sikerura」の意味について「(村おさの息子が) 山さ行って、熊獲ったりシカ獲ったりした、その肉が背負って来て、そのウエンクル wenkur (貧乏人) 娘のときさ持ってきて、惚れていたけど」と述べている。

アマッネポホ ネ オッカイポ

a=matnepoho ne okkaypo

その青年と

トゥラ ワ テ ワノ

tura wa te wano

一緒に行って今から

ニシパ オロツ ヤク ピリカ」 セコロ

nispa orot yak pirka” sekoro

長者の仲間になりなさい。」と

アオナハ ハウェアン ルウェ ネ ヒネ

a=onaha hawean ruwe ne hine

私の父が言って

オラ エネ ネ ヒ カ イサム ペ ネ クス

ora ene ne hi ka isam pe ne kusu

どうしようもないので

オラ ネ オッカイポ アトゥラ ヒネ

ora ne okkaypo a=tura hine

それからその青年と私が連れ立って

ネ (ニ) コタン オツ タ アラパアン

ne kotan or ta arpa=an

その村に行った。

サナン ヒネ アトゥラ ヒネ

san=an hine a=tura hine

〔浜手へ〕下って私を連れて

(サ) サパン ルウェ ネ ヒネ

sap=an ruwe ne hine

下って

オラノ ネ コタン コン ニシパ

orano ne kotan kor nispa

それからその村の長者

オッタ アナニネ エアラキンネ イエヤム

or ta an=an hine earkinne

のところにいととも私を大事にした。

シネ イタク ポカ

i=eyam sine itak poka

一言だけでも

アラカ イタク (イ) イコスイパ

arka itak⁽¹²⁾ i=kosuyapa

怒声を言うわけでもなく、

イイエパ カ ソモキノ

i=yepa ka somo ki no

私に言わないで

ピリカ ウウェトゥラシテ ヒネ

pirka uweturaste⁽¹³⁾ hine

仲睦まじくして

オッカイポ トゥラノ オカアン ヒネ

okkaypo turano oka=an hine

青年と一緒に暮らして

エアラキンネ (エ) アエヤイコブンテク

earkinne a=eyaykopuntek

とても私は喜びました。

アナヌミ ピリカ ワ

an=an humi pirka wa

私たちの暮らしが良くて

アエヤイコ (プテ、ポン) プンテク コロ

a=eyaykopuntek kor

喜んで

アナン ラポッケ オラ

an=an rapokke ora

私たちが暮らしていたところ

ネ コタン コン ニシパ エネ ハウェアニ

ne kotan kor nispa ene hawean hi⁽¹⁴⁾

例の村長がこのように言った。

(ネ) アオナウタリ (エ、プイ)

a=onautari

私の父たちと

アウヌフ スケ ワ イペ コロ

a=unuhu suke wa ipe kor

私の母が料理して、食事をして

オカイ ペ ネ クス オラ

okay pe ne kusu ora

暮らしていたので、それから

アユプタリ エウン (コタン コロ)

a=yuputari eun

私の兄たちへ

コタン コン ニシパ コタン オロ ワ

kotan kor nispa kotan or wa

長者さんの村から

ピリカ ポンメノコ エトウン ヒネ

pirka ponmenoko etun hine

美しい娘を嫁にして

アユプタリ パロ オスケ (メ)

a=yuputari paro osuke

兄たちの食事の世話をした。

(12) 直訳は「アラカ イタク arka itak (痛い・ことば)」であるが、[久]にある「arka itak 怒っていふ声 (口葉)」という記述を参考にして本テキストでは「怒声」と訳した。

(13) 「ウウェトゥラシテ uweturaste は [久] に「pirka ueturashte 夫婦睦まじくツレソフ」とあり、[萱]に「ウウェドランドラシ [u-e-turasi-turasi] 仲睦まじい、仲がよい」とあるのを参考に訳した。なお、文脈から動作主を「私たちが」とする人称接辞「=an」が接尾していないため、ここでの動作主は夫である青年と解釈する。

(14) 通常はこの次に村長の発言の引用文が語られるが、本テキストでは省略されている。

ポンメノコ ウタラ ポロ アユピヒ カ
 ponmenoko utar poro a=yupih ka
 娘たちを大きい兄も
 ポン アユピ カ (ア)
 pon a=yupi ka
 小さい兄も
 ア シウトニシパ ポンメノコ
 a=siwtonispa ponmenoko
 私の舅の娘を
 コンルスイ ヒネ ウシンナ ウシンナ
 kor rusuy hine usinna usinna⁽¹⁵⁾
 欲しくて、めいめい別々に
 オカアン ワ ポ ヘネ
 oka=an wa po hene
 暮らしてなおいっそう
 アエヤイコプンテク コロ
 a=eyaykopuntek kor
 私はそれを喜んで
 ネプ カ (アコ) アコンルスイ カ (カ)
 nep ka a=kor rusuy ka
 何を欲しいとも〔思わずに〕⁽¹⁶⁾
 オラノ (ノ) アナクネ オカアン ラポッケ
 orano anakne oka=an rapokke
 それから暮らしていたところ
 シネ アンチカラ ウェントラプアン
 sine ancikar wentarap=an
 ある夜、私が夢を見る
 ルウェ ネ アクス (ウ)
 ruwe ne akusu
 と、
 ピリカ ワ オケレ (エ) カムイ
 pirka wa okere kamuy
 とても美しい神
 ネ クス コラチ アン ポンメノコ
 ne kusu koraci an ponmenoko
 なので、そのように見える娘が
 イサム タ アニネ エネ ハウェアニ
 i=sam ta an hine ene hawean hi
 私のそばにいて、こう喋った。

「タン ポンメノコ イタカン チキ
 “tan ponmenoko itak=an ciki
 「これ、娘よ私が話したら
 エイヌ カトゥ アナク エネ アニ
 e=inu katu anak ene an hi
 よく聞きなさい。
 アシヌマ アナクネ ネプ アイヌ
 asinuma anakne nep aynu
 私は人間
 アネ ルウェ カ ソモ ネ
 a=ne ruwe ka somo ne
 ではありません。
 カッコク カムイ (イ) マツネボホ
 kakkok kamuy matnepoho
 カッコウ神の娘が
 アネ ヒネ アナン ルウェ ネ コロカ
 a=ne hine an=an ruwe ne korka
 私なのであるけれども
 アイエヌワプ エアンチカリ エアニ カ (ア)
 a=i=enuwap eancikari eani ka
 私が産まれたその夜に
 シネ アンチカッタ アエヌワプ ペ エネ ヒネ
 sine ancikar ta a=enuwap pe e=ne hine
 お前もその夜に生まれたので
 ヤイカタ カ (ア) シネ アンチカラ タ (ア)
 yaykata ka sine ancikar ta
 自分もその晩に
 アエヌワプ ペ アネ ルウェ ネ⁽¹⁷⁾ (ヒ)
 a=enuwap pe a=ne ruwe ne
 生まれたので
 オラノ ネン ポカ エイキパ ワ
 orano nen poka e=ikipa wa
 それからどうにかして
 『ウェンクル (ウェ) サニ (イ) エチネ』
 “wenkur sani eci=ne”
 『お前たちは貧乏人の子孫だ。』
 ヤク (アイ) アイエ コロ
 yak a=ye kor
 と言われながら

(15) 実際には「ウシムネ usimne (次々の日に)」と聞こえるが、[田]によると「usinna ウシンナ (互いに別々に異なつて)」の例文として「ウシンナ ウシンナ usinna usinna (めいめい別々に)」と重ねて表現しているのが三つあることから、本テキストでも同様に表現していると解釈して表記した。

(16) アイヌ語では次に「ソモ キ ノ オカアン somo ki no oka=an (思わずに私たちはいた)」と言おうとしたと思われるので、そのように〔 〕内に訳出した。

(17) 上田氏によると、カッコウ神の娘と同じ日の夜にその貧乏人の娘が誕生したことが理由で気になって貧乏人の家族を見ていたところ、父親たちの精神が良いことがわかったので見守っていたのであるという。

エチオカ コロカ

eci=oka korka

お前たちが暮らしていたけれども

パクノ ケウトウム ピリカ ワ

pakno kewtumu pirka wa

これほどの精神が良くて

エオナハ ウタラ ネ ヤッカ

e=onaha utar ne yakka

お前の父親たちであつても

ヤイカタ ネ ヤッカ イキ ヒ クス

yaykata ne yakka iki hi kusu

自分であつてもそうなので

オラノ (エチ、エ) ネン カ (ア)

orano nen ka

それから誰か⁽¹⁸⁾

アイヌ ネ (エ、ネプ、ピリ、ネ、エネ) エアン ワ

aynu ne e=an wa

人間として、お前がいて

ニシパ (エ) エエオツ ヤク オラ

nispa e=eot yak ora

お前が長者を訪れたら

(カク) 『カッコク カムイ アノミ ナ』

“kakkok kamuy a=nomi na”

『カッコウの神を祭りますよ。』

セコロ アイイエ ワ

sekor a=i=ye wa

と言われて

アイノミ ルスイ クス オラノ

a=i=nomi rusuy kusu orano

私たちは祈られたいから

ネイ パクノ アエシッカシマ (エ) コロ

ney pakno a=e=sikkasma kor

それまで私を守って

テ パクノ アナン ルウェ ネ ワ クス

te pakno an=an ruwe ne wa kusu

今までいたのですから

アエチシ (ンン…、カン) ヌカラ (?) ⁽¹⁹⁾ クス

a=e=ciskasnukar?? kusu

お前が恵まれた (?) ので

アコッ タマゴ カ (ア、エ) エウク ワ

a=kor tamanko ka e=uk wa

私の卵をお前が取って

エウニ タ エルラ ワ スウオプ

e=uni ta e=rura wa suwop

自宅に運んで箱に

スウオプ アサム エオマレ ワ

suwop asam e=omare wa

箱の底にお前が入れて

エアン ルウェ カ アヌカラ

e=an ruwe ka a=nukar

いたことも私は見た。

ポ ヘネ アエコヤイライケ

po hene a=e=koyayrayke

いっそう私はお前に感謝

ルウェ ネ クス (ウ) テ ワノ アナクネ

ruwe ne kusu te wano anakne

したのでこれから

(エ) ネプ エシリキラプ カ

nep esirkirap ka

なんの苦勞も

ソモ キ ノ エアン (ア…)

somo ki no e=an

せずにお前が暮らした

コタン コン ニシパ エエオツ ワ

kotan kor nispa e=eot⁽²⁰⁾ wa

村の長者に赴いて

エアン ルウェ ネ クス オラ (ア)

e=an ruwe ne kusu ora

お前はいるので

テ ワノ ポ カ ポロンノ エコロ ヤク

te wano po ka poronno e=kor yak

今から子供もたくさん持ったら

オラ、(ン、ヒ) オラ (ア) サケ

ora, ora sake

それから酒を

エチカラ ワ 『リクン カント ウン

eci=kar wa “rikun kanto un

お前たちが作って『上の天にいる

カッコク カムイ アノミ ナ』 セコロ

kakkok kamuy a=nomi na” sekor

カッコウの神に祈りますよ。』と

エチハウエオカ コロ (エコンニ)

eci=haweoka kor,

お前たちが言いながら

(18)「誰か」ということばは2行下の「長者」にかかっている。

(19) 言いよどみのため、このように聞こえるが、「アエチカシヌカラ a=e=cikasnukar」と筆者は推測した。参考になる単語として、[萱]に「チカシヌカラ ci-kasi-nukar 恵まれる」及び「チカシヌカラベ ci=kas-nukarpe 授かり物。」と記述あり。[久]には「chikashnukar 神に守護せられる」と記述あり。どちらにしても本テキストのこの箇所の正確な語形と意味は不詳。

(20)「エオツ eot (〜に赴く)」とも聞こえるが、カッコウの神から娘が言われている場面なので第二人称接辞「エ e= (お前が)」が必要と解釈して記した。

トゥラノ エアン ニシパ ネ ヤッカ
 turano e=an nispa ne yakka
 お前と一緒に暮らしている長者にも
 エシウト ニシパ エウン ネ ヤッカ
 e=siwto nispa eun ne yakka
 舅にも
 アウェントラプテ クス (ウ)
 a=wentarapte kusu
 私が夢を見させたので
 カッコク カムイ アイノミ ワ
 kakkok kamuy a=i=nomi wa
 カッコウの神が祈られて
 アイコレ ヤクン オラ
 a=i=kore yakun ora
 くれられるのなら
 ネイ パクノ エチアエプンキネ (ワ)
 ney pakno eci=a=epunkine⁽²¹⁾
 いつまでもお前たちを私が守る
 クス ネ ナ」セコロ アン
 kusu ne na” sekor an
 つもりだよ。」という
 ウェントラプアン コロ エアラキンネ
 wentarap=an kor earkinne
 夢を見てとても
 アエイコブンテク コロ
 a=eyaykopuntek kor
 私は喜んで
 クネイワ ホプニアン ヒネ
 kuneywa hopuni=an hine
 朝、起きて
 アイェ クス ネ アクス
 a=ye kusu ne akusu
 私が言おうとすると
 ネア アヘコテ ニシパ カ
 nea a=hekote nispa ka
 私の夫も
 ウネノ ウェントラプ (テ) ヤク イェ
 uneno wentarap yak ye
 同じ夢を見たと言った。

アシウト ニシパ カ (ウェントラプ)
 a=siwto nispa ka
 私の舅も
 『ピリカ ウェントラプ コロ ルウェ ネ』 ヤク
 “pirka wentarap kor ruwe ne”⁽²²⁾ yak
 『よい夢を見たものだ。』と
 イェパ コロ オラ ナニ エヤイコブンテクパ
 yepa kor ora nani eyaykopuntekpa
 言うとすぐに喜び
 ヤイライケパ プ ネ クス ナニ
 yairaykepa p ne kusu nani
 ありがたいのですぐに
 サケカラアン ヒネ オラ
 sakekar=an hine ora
 酒を造って
 「ピリカ (ア) サケ アニ イナウ アニ (イ)
 “pirka sake ani inaw ani
 「美味しい酒で、御幣で
 リクン カント ウン カッコク カムイ
 rikun kanto un kakkok kamuy
 上の天にいるカッコウの神、
 カッコク エカシ アノミ ナ」⁽²³⁾ セコロ (ウ)
 kakkok ekasi a=nomi na” sekor
 カッコウの爺さんに祈りますよ。」と
 アシウトニシパ ウタラ ハウェオカパ コロ (ウ)
 a=siwtonispa utar haweokapa kor
 舅たちが言いながら
 ウサ サケ ウサ ピリカ アエプ
 usa sake usa pirka aep
 酒やご馳走やら
 ウサ イナウ アニ カッコク カムイ
 usa inaw ani kakkok kamuy
 御幣でやら、カッコウの神
 アノミ カ キ ルウェ ネ ヒネ オラ
 a=nomi ka ki ruwe ne hine ora
 に祈りもしてから
 アオナ ウタラ カ (ア、エ、カ)
 a=ona utar ka
 私の父たちも

(21) 「エチアエプンキネ eci=a=epunkine (私がお前たちを守る)の「エチア eci=a=」はアイヌ語沙流方言の文法では非文であるが、アイヌ民族博物館(編)『アイヌ民族博物館 民話ライブラリ1 上田トシの民話1』一般財団法人アイヌ民族博物館(2015)のp83や同シリーズ3巻目のp192に「エチアエプンキネ eci=a=epunkine」と同じ語形があることから、単なる言い間違いではなく、上田氏の個人語(Idiolect)の可能性があると査読者から指摘され、筆者もそう解釈した。

(22) この引用文では、人称接辞を付けて「ウェントラプアン ルウェ ネ wentarap=an ruwe ne (私は夢を見たのである)」あるいは「ウェントラプ アコロ ルウェ ネ wentarap a=kor ruwe ne」(夢を私は持ったのである)」となりそうであるが、この行で人称接辞は聞こえない。

(23) 口演後の雑談で上田氏はこの点について「カッコク エカシ アノミナ セコロ アイェ コロ、シネ カッコク パテク ソモ ネノ カムイ オピッタ カッコク オピッタ エウマラプトコロ kakkok ekasi a=nomi na sekor a=ye kor, sine kakkok patek somo neno kamuy opitta kakkok opitta ewmaraptokor (カッコウの爺さんを祭りますよと言って、一羽のカッコウだけではない、神様みんな、カッコウがみんな饗宴を受ける)っていうのは、みーんな祭ってもらえるってことが、エウマラプトコロ ewmaraptokor っちゃうんだ。」と述べた。

ピリカ コシマツ コロパ プ ネ クス
pirka kosmat korpa p ne kusu

よい息子の嫁を持ったので

アオナ ウタン ネ ヤッカ

a=ona utar ne yakka

父親たちも

オンネ エトク タ (ピリカ ア、シリ)

onne etok ta

年を取って亡くなる前には

シリキラプ サク ノ オカ ロク

sirkirap sak no oka rok

苦労もなく暮らしていた

アイネ (エ、ア ルウェ ネ オラ)⁽²⁴⁾

ayne

あげく

アシウト ニシパ カ アオナ エウン

a=siwto nispa ka a=ona eun

舅も私の父のところへ

シネウェエアラパ アオナ ウタラ カ

sinewearpa a=ona utar ka

遊びに行き、私の父たちも

イコシネウェ ネ ヤ キ コロ

i=kosinewe ne ya ki kor

私に訪ねて来たりしながら

オカアン アイネ (ポ) ポコロアン

oka=an ayne pokor=an

暮らしていた結果、私は子供を生んだ。

オッカヨ ポイソン マッカチ ウカヌカン (?)

okkayo poyson matkaci a=ukannukar??⁽²⁵⁾

男の子と女の子のめんどろをみた (?)。

アコロ ペ ネ クス

a=kor pe ne kusu

私は「子供を」持っていたので

アオナ ウタラ イコイヨマプ

a=ona utar ikoiyomap

私の父親たちがとても可愛がって

(イコ、エ) エライニンネ

erayninne

世話をしてくれた。

ネア アシウトニシパ ウタラ ネ ヤッカ (ア)

nea a=siwtonispa utar ne yakka

舅の旦那さんたちであっても

イコイヨマプ ネ ヤ キ コロ

i=koiyomap ne ya ki kor

私たちを特別に可愛がりながら

オカ ロク アイネ タネ

oka rok ayne tane

暮らしていたあげく今は

アオナ ウタラ ネ ヤッカ オンネ (ア) ワ

a=ona utar ne yakka onne wa

私の父たちも亡くなって

アピリカオンネレ

a=pirkannere

きちんとあの世へ送った。

ピリカ コシマツ コロ ワ

pirka kosmat kor wa

よい嫁を持って

アオナ ウタン ネ ヤッカ ピリカノ (オヌ)

a=ona utar ne yakka pirkano

父親たちも幸せに

オンネ ヤイカタ ネ ヤッカ

onne yaykata ne yakka

亡くなった。自分も

アシウト ウタラ ネ ヤッカ

a=siwto utar ne yakka

私の舅さんたちであっても

アピリカヌメケ コロ オカアン ロク ヒネ

a=pirkanunuke kor oka=an rok hine

私がよく面倒を見ながら暮らして

タネ アコロ ソン ウタラ カ

tane a=kor son utar ka

今は私の子供たちが

ルプネパ シリ カ

rupnepa siri ka

成長した様子も

アシウト ウタラ カ アオナ ウタラ カ

a=siwto utar ka a=ona utar ka

舅たちも父親も

ヌカラ ワ オラ アシウト ニシパ ウタラ カ

nukar wa ora a=siwto nispa utar ka

見て、私の舅さんたちも

オンネ ワ イサム コロカ

onne wa isam korka

亡くなってしまったけれども

(24) 接続助詞の「アイネ ayne (～したあげく)」と文末詞「ルウェ ネ ruwe ne (～ことである；客観的事実を断定的に表現する)」は文法上はつながらないので、後者を言いさしと解釈した。

(25) 実際の音はカタカナ表記の「ウカヌカン」と聞こえる。文脈上で考えると「アヌカンヌカラ s=nukannukar (私は～のめんどろをみる)」になるであろうと推測してローマ字表記と訳出をしたが、「ウカ ウン ウカ ウン uka un uka un (重なって重なって)」の言い淀みの可能性もある。

オカ タ アナン ルウェ ネ クス

oka ta an=an ruwe ne kusu

その後に私たちがいたので

アポ ウタラ (ウ) アコイタクムイエ

a=po utar a=koytakmuye

子供たちに言い残した。

「カッコク カムイ (ウ、イク、ウ)

“kakkok kamuy

「カッコウの神様が

イピリカレ クスケライボ

i=pirkare kusukeraypo

私たちを幸せにしてくれたおかげで

エネ アン ピリカ (ウ、カ、ア、ヘ) ヘカッタラ

ene an pirka hekattar

このようによい子供たちを

(ポ、ポ) ポロンノ アコン ルウェ ネ クス

poronno a=kor ruwe ne kusu

たくさん持てたので

ネイ パクノ アポ ウタラ オカ ヤッカ

ney pakno a=po utar oka yakka

いつまでも子供たちが暮らしても

カッコク カムイノミ

kakkok kamuynomi

カッコウへの祈りを

オイラ イテキ キノ カッコク カムイ

oyra iteki ki no kakkok kamuy

忘れないでカッコウの神を

アノミ ナ」 セコロ ハウエオカパ コロ

a=nomi na” sekor haweokapa kor

祭りなさい。」と言いながら

「リクン カント ウン ノミ ワ

“rikun kanto un nomi wa

「上の天に祈って

イコレ ヤク ピリカ ナ」 セコロ

i=kore yak pirka na” sekor

くれたらよいぞ。」と

アポ ウタラ ピリカノ アカシパオツテ ワ

a=po utar pirkano a=kaspaotte wa

私の子供たちによく命じて

オンネアン ペ ネ ア クス アイェ セコロ

onne=an pe ne a kusu a=ye sekor

私は亡くなったので言うのだよ、と

シネ メノコ イソイタク セコン ネ。

sine menoko isoytak sekor ne.

一人の女が話したのだと。

(大谷) ほう。

(上田) ふっふふふ。

(大谷) ありがとうございます。

(鍋沢) えらいねー。長いウウェペケレだ。ねえ。

(上田) わかるか？

(鍋沢) わかる。聞い…、わかる。

(上田) わかる。

(大谷) あの一、ラペンペってなんですか？

(上田) 野茅 (のがや)。

3 日本語テキスト

(上田) 貧乏な娘の生活で、父親、母親、兄貴も2人いて、生活してるけども、父親がもう貧乏で、なに仕事も思うような仕事も出来ない。

魚とりに行っても魚の…、お、一匹も持って帰るっちゅうこともないで、ほん…、で、貧乏生活、兄貴ら共に、気、気のきいたものも、食べたこともないで生活してて、やん、ているうちに、やがて大きくなってから、初めて兄貴らが、山へ行くようになってからは、もうシカなりクマなり獲って帰るようになってからは、そういうものを食べたりなんかしたら、あまり、生活にも、困らないでいるんだけど、自分は、もう、家にいて兄貴らの帰る、う、し…、帰って来たらすぐ食べるようにと思って、食べるもの、夕飯の支度する。

昼になれば焚き木とり山へ行くと、ま、その薪とって来るのも、おかしい薪とって来ないで、いい薪採って来て、家にくべれば、あー、火の神さんも、いい薪、焚いてくれたって火の神さんも喜んでくれると思うから、おかしい薪は採らないで、いい薪ばかり採って来て、家に火焚いて、えー、親にあたらしでやる。その兄貴らが帰って来ても、すぐ、いい火にあたって、いい、いいもの煮ておいて食べらさようにと思って、そういうことばかりしてるうちに、ある日に、いー、まだ薪とりに行って、薪採って、荷物こしらえて、それをそーと持って、座ってて見てたけ、カッコ鳥が、その野茅のものと〔根本〕あるとっから、飛び立ってたの見たけ、なんか、カ、同じカッコク kakkok (カッコウ) ででも、少しこう、嵩〔身の丈〕の大きいようなカッコ鳥で、え、発って行ったの見たから、あー、と、不思議だから自分、行って見たけ、卵三つそこにあっただ、もう喜んでその、普通でないと思って、その卵、すぐ懷さ入れて、持って帰って、家さ帰って来て、から、その、兄貴らが帰って来たから、兄貴らに、に、二番目の兄貴さ、やったけ。兄貴の兄貴、喜んでもう、すぐ、うー、ひ…、それこそ、なんだ？箱、箱に、きれいな一番いい箱に入れて、ちゃんとその卵、しまっておいた。おいてあったの、それからもう、なんも、それ、関わりな一く一所懸命、仕事してるうちに、部落の大きな部落、んな、のー、だけど自分ら貧乏であるから、その部落と一緒に生活するのも恥ずかしいからと、って、も、その部落に外れて、え、生活していたの、その部落の酋長さんがある日に、遊びに、行く振りして大きな荷物持って、来たけ、自分の父親がビックリして、そんない、部落の酋長さんが自分みたいなこんな貧乏しているところへ、来てもらって

いうことは恥ずかしいこったな。な、ふ、普通なこって来たのか、「な、何しに、来たの？」ちって、すごい自分の父親ビックリして、その酋長さんに訊いたけ、その酋長さん、言うのには、「自分の部落には、娘さんがたっくさんいるんだけど、その娘さんを貰って自分の息子、1人息子だから、嫁貰うったら、もう、その一、部落の、いいとこの娘らは自分、いらない。この貧乏人の娘、だら、自分、一緒になるけど、お、いいとこの娘らとは結婚したくないって、その自分の息子が嫌がって、なんと言ってももう、嫌がって困ってるから」って来たんだって。「したから、あ、そのたとえ貧乏であっても何しても息子の言うなりになりたいから、その一、娘、えー、くれないか？」ちって自分の父親さ訊いたけ、自分の父親言うのには、「自分は貧乏でこのとおりの、そういう生活してるから、自分の娘が、いいところさやって、から、あによ…、あんな貧乏な娘、嫁貰ったとか、なんとかちって、こう、軽蔑されたら、もう、娘が、かたし…、肩身が狭い思いして生活するのを、かわいそうだから自分は、ああ、嫌だ」って父親は言って、なんと言っても反対して、からその一、酋長さん、戻って行った。

や、またあくる日になって、「このとおり自分は…、らは着るものもないって、こういう生活してるんだ」っていうことも父親言ったもんだから、あくる日になったけ、また、その酋長さんの奥さんが大荷物して来て、え、や、こ、今度は着るものいっぱい背負って来て、父親の着るもの、母親の着るもの、

(鍋沢) ちょっと電話するから…

(上田) 自分の、着るもの、やら、何から何まで一切そろえて、持って来てくれたんだけど、それーでも自分の父親は、「は、恥ずかしいって、自分ら、こんな生活してて、貰い物して、着るものから何から何まで、貰い物して、その娘が嫁にやるっちゅうことは、あ、どこからどこまで、肩身が狭い思いするから、

(鍋沢) あ、ヘルパーさん、いません？⁽²⁶⁾

(上田) 電話入れてる。

(大谷) ちょっと切っておくか。

(録音一時中止)

(大谷) え、そ、その後ですね。ええ。

(上田) 断って、断っていたんだけど、そしてその一、酋長さんの奥さんも帰って、こんど次の二日三日したら、

(26) 同席していた鍋沢キリ氏がここで席を外して電話をかけたために録音を一時中断した。

こんどその息子が、こんど毎日仕事して行って、仕事、にとった…、シ、荷物、シケルラ sikerura（荷物を運ぶ）って、クマでもなんでも、今日の働いたものが、あ…、じ、自分家さ持って行かないで、自分ってその、貧乏娘のときさ背負って来る、ようになった。「自分の兄貴らもう、働けるようになってから、食べることは心配ない生活して、いるんだけど、それでも荷物運んでくれるっちゅうことはもう、あまりにも申し訳ないから」って、その自分の父親言って、「いつまでも勿体つけないで、から、こんどもう、あまりにも酋長さん方に申し訳ないから、こんどその一、若いものと一緒に、い…、行けー」って言われて、それから、こんどその若いものと一緒に酋長、その部落さも行ったこともなかったけども、初めてその部落行って、その、お…、息子の、息子って、酋長さんの家さ入って、それから一緒に生活してはもう、自分ももう、なんも気をつけて、動いてるだけにその舅さん方もとっていい人らで、なんも不自由ないで、自分ら暮らして、え、いるうちに、その一、酋長さんにも自分、大事にする、だけに、その自分一緒になった婿さんも自分の、親たちさ大事にして、暮らしてるうちに…、こんどその一、し、酋長さん方やら自分の婿さんの方から、いい娘もらって、自分の兄弟、兄貴も弟にも嫁もらって預けて、兄貴らもなんも不自由ないで生活してるうちに、ある夜のこと、夢見たけ、きれいな、女が自分のそばに、す、にいて、「自分、言うの、よく聞いてください」って、って「自分は人間でない。神さんだ」って「カッコ鳥の神さんだ」って、「だけでも自分が、生まれた夕べに、生まれたその夜と一緒に、その、あんたも一緒に、一晩のうちに、生まれたっちゅうことわかってから、で、見てたらもう、とっても精神もいいし、親兄弟みーんな精神いいから、この娘を見守っていて、一人前なって、立派な旦那と生活するよう

になったら、こんど自分に、に一、カッコ鳥ちって自分さ、祭ってもらえるんでないべかと思って、それからずっと見守って、いていて、今まで、なっていたんだから、これから、立派に生活して、子供出来てもなにしてみちゃんと見守って、死ぬまであくまで見守ってやるから、その代わり自分さ、この一神さんに、カッコ鳥の、お、お、爺…、爺さん、拝む、に、供えるからって、酒やら御幣やら、食べ物やら、なんでも祭ってください」って、「たら、あくまで、あんたらさ守ってやるから」っていう夢みてから、もう喜んで自分、朝起きて言っただけ、自分の旦那も、舅さんも同じ夢だっちゅうことでもう、よろ…、

（電話の受信音がしたので録音一時中止）

（大谷）そのみんなで夢、一緒に見たっていうところ。

（上田）その、息子らにも子供もたくさん自分も出来たし、り、自分の兄弟らも幸せに生活するようになったから、って一、自分の、子供ら、舅さんらにも見守ってもらう、で、守りしてもらったり、いろんなことして、ずっと幸せになって、自分はこの世…、舅さんらもう亡くなってしまっただけに、生活して、幸せな生活して、亡くな、なったけど、子供らさ遺言するのは、「この一、カッコ鳥っちゅうものは立派な、自分に守ってくれた鳥なんだから、カッコ鳥、だけは絶対、息子ら見守って、守って、供え物してくださいよ」っていうこと、遺言して、亡くなっ…、この世、発ったっていう、お、それこそ、女の物語なんです。

（鍋沢）ああ、そうかい。ふーん。

（大谷）はい、どうもありがとうございます。

（上田）ふっふ…。

Ainu Oral Literature “Uwepeker” : The Girl Who Was Protected by the Cuckoo Deity

OHTANI Yoh-ichi

This text is an audio-recorded story presented by Ms UEDA Toshi (1912-2005), who was born in Biratori Town, Saru District, Hokkaido. Among Ainu oral literary art, it belongs to the genre of *uwepeker*.

The main character of this story is a girl who lived in poverty with her parents and two elder brothers. When the girl went to the hills to gather firewood, a large cuckoo flew away from a patch of grass. Finding three eggs in the nest, she brought them home. Overjoyed, her elder brothers placed the eggs into a beautiful box. Later, the village chief's son asked for the girl's hand in marriage. They were wed, and lived in happiness.

One day, the girl had a dream in which a beautiful woman appeared. The woman said, “I am the cuckoo deity. You were born on the same day as I, and so I have watched over you. If you would worship the cuckoo as a deity, I shall continue to watch over you all.” Her husband and the village chief had the same dream. The village chief and his companions soon worshipped the cuckoo as a deity, and in turn led happy lives.

This story conveys the theme of preservation of mutually beneficial relationships between Ainu and deities through dreams and prayer.